

令和2年度 北海道教育大学札幌校 教員養成課程
生活創造教育専攻 総合技術教育分野

編入学試験 小論文問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開かないこと。
2. 問題冊子は、この表紙を含めて3ページです。解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚あります。
3. 解答は、解答用紙の指定欄に記入すること。
4. 解答は解答用紙に横書きとし、句読点、及び段落の字下げ、改行によって生じた空白も字数に含め、指定された字数内にまとめること。
5. 受験番号は、解答用紙の指定欄に記入すること。
6. 解答用紙のみ提出し、問題冊子と下書き用紙は試験終了後持ち帰ること。なお、いかなる理由があっても、解答用紙以外は受理しません。
7. 試験中に、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等により交換を必要とする場合は、手を挙げて監督者に知らせること。

問題 以下の文章を読み、後の問に答えなさい。

通常、科学技術は「価値中立的」と考えられている。つまり、科学や技術それ自体は良いものでも悪いものでもなく、包丁や劇薬と同様に、それを使う人次第で良くも悪くもなるという「科学技術＝両刃の剣」説である。しかし、現代社会では次第にそのような単純な考え方は成り立たなくなっている。というのも、包丁は単純な機能の道具であり、それがどのように働き、どのような社会的影響を及ぼすかはあらかじめ予測することができる。しかしながら、現代の科学技術はそのような単機能の道具ではなく、多様で複雑なメカニズムによって動いており、その帰結や影響を前もって予測することが甚だ困難な代物なのである。したがって、科学技術の善意の使用が悪しき結果をもたらす可能性は十分にありうる。薬品の副作用や原子炉から排出された放射性廃棄物を挙げるまでもなく、現代の科学技術は社会的リスクと表裏一体なのであり、その限りで「価値中立的」ではありえない。それをコントロールするためには、複合的な視点と多角的な考察が必要とされるのである。

<中略>

また、これまでは理論的発見とその技術的実用化までには大きなタイムスパンがあったけれども、現在ではその時間的距離が著しく短縮されている。研究室で実験された試料や試作品が、時をおかずに市場へ製品として出回るということが現実化しており、その意味で実験室と社会とがこれまでのように隔絶されたものではなく、地続きになっているのである。言うならば、実験室が社会化し、社会が実験室化するという状況が生まれているのであり、遺伝子組み換え食品や生殖技術などはまさにその好例と言える。

(野家啓一『科学哲学への招待』(2015)ちくま学芸文庫, pp243～244より縦書きを横書きにして引用)

問1 筆者は現代の科学技術は「価値中立的」ではないと主張しているが、その理由について300字以内で説明せよ。(100点)

問2 筆者は「現代の科学技術をコントロールするには複合的な視点と多角的な考察が必要」と主張している。この「複合的な視点と多角的な考察」とはどのようなものか、SNSの功罪を例にとって、あなた自身の考えを1200字以内で述べよ。(150点)